

# 現代英国パブリック・スクールにおける 完全寄宿制とその意義

—イートン校とハロウ校を中心に—

古 阪 肇

## 1. はじめに

現在、共学化が進み、寄宿制から通学制への形態変化が推進されていく中で、寄宿制度を保持する英国パブリック・スクールの存在意義について改めて問い直すことが肝要になってきていると思われる。かつて英国パブリック・スクールという名称からイメージされる学校像は、寄宿制<sup>(1)</sup>を採っているものであった。通学制は、名門パブリック・スクールとは見なされにくい学校形態であり<sup>(2)</sup>、従来のパブリック・スクールの研究も男子寄宿制の学校が主流を占めていた。パブリック・スクールの歴史を振り返ると、学校形態が寄宿制の男子校であり、クリスチャンジェントルマンの育成を標榜し、古典教養教育と集団スポーツを中心としたカリキュラムを組み、質素な食事と宿舎による厳しい環境<sup>(3)</sup>の中で生活するといったいわゆる伝統的校風というのは、次第に自由で個人主義的な校風の変化の中で変容してきたことが窺える。この変化は、1960年代後半から70年代前半にかけて加速化し、いわゆる「パブリック・スクール革命」や「パブリック・スクールの近代化」と呼ばれた<sup>(4)</sup>。

現在のパブリック・スクールでは、ラテン語やギリシャ語といった古典語の文法や詩の暗誦が大半を占めていた19世紀以前のカリキュラムから、20世紀前半の軍事教練<sup>(5)</sup>や集団スポーツを重視した時代を経て、学力に重きを置き、大学入試を主眼に置きつつもスポーツ、芸術と共にバランスの取れたカリキュラムを組む学校が主流になっている。従来の寄宿制パブリック・スクールの特徴のひとつであった、監督生（ブリーフェクト）と使役生（ファッグ）という、上級生と下級生間のいわば主従関係の中で営まれた使役制度も私的な関係間における圧制という観点で捉えられ、軍事訓練と同様に1960年代以降、次第に廃止されるようになった。

このような一連の変化により、従来からの伝統的な寄宿制パブリック・スクールの特徴が失われてきていることが予想される。また、MORI調査<sup>(6)</sup>や、専門家のインタビュー、質問紙調査の結果から、親（保護者）や生徒がパブリック・スクールに望む主要な期待は、学外試験での優秀な成績のみならず、生徒の規律を高めることや、人間形成的側面における成長に向けられていることが分かっている。この結果は、長い歴史を持つパブリック・スクールの寄宿制がどのような意義を持ち、存続させる価値があるものかどうかについて改めて問い直すことの重要性を再認識させるものである。

以上の点を踏まえ、本論文では、特に学校形態に焦点をあて、完全寄宿制を採る2校を中心に、変

容しつつある現代英国パブリック・スクールにおける完全寄宿制の存在意義について考察することを目的とする。その際、公開された学校による情報や最新の学校監査報告書等を参考に、学内の視点のみならず学外評価にも着目していく。

## 2. 学校監査報告書と寄宿舎の監査

英国パブリック・スクールの学校監査を行い、学校監査報告書を公表している独立学校監査団（The Independent Schools Inspectorate : ISI, 以下 ISI と記述）、および寄宿舎の監査を行っている教育水準局（Office for Standards in Education : OfSTED, 以下 OfSTED と記述）は、同学校の外部評価機関として重要な役割を果たしている。

英国にはインディペンデント・スクールを包括している独立学校委員会（Independent Schools Council: ISC, 以下 ISC と記述）という組織があり、これは校長会議校をはじめとする、いくつかの同種類の学校組織<sup>(7)</sup>から成り立っている。2009 年度現在、英国およびアイルランドで学ぶ 50 万人以上の生徒が在籍する 1,280 校のインディペンデント・スクールが ISC の組織下にある<sup>(8)</sup>。ISC に属する学校は、世界的に知名度の高いパブリック・スクールも含まれているが、大多数の学校はその地域以外では広く知られていない。しかし、英国のインディペンデント・スクールに学ぶ大半の生徒は、ISC に加盟している学校に在籍しており、ISC はインディペンデント・スクール全体を代表する組織であると定義づけることができる。

ISC は、独立学校合同委員会として 1974 年に、校長会議や独立学校理事会（Association of Governing Bodies of Independent Schools : AGBIS）、独立学校会計協会（Independent Schools' Bursars Association : ISBA）などの主な理事会、委員会、会計団体によって組織された。その後、1998 年に独立学校委員会として再構成され、2002 年に主要機能の再編が実施され、大規模な見直しが行われた。そして現在、児童福祉、情報保護、試験水準、大学入試やその他法律の問題を含む複雑かつ政治的に慎重を期する課題に取り組んでいる。また ISC は政府やメディアに対するこれらの諸問題を統括する代表組織であり、同委員会の帰属学校に対する助言を行っている。さらに ISC の調査スタッフによると、ISC の活動における確実かつ包括的な情報源は全て開示されて入手可能なものであり、コミュニケーション部門は国家、地域および国際メディアとの関係における全責任を担っている。そして広範囲に亘る政治、法律、教育または実用上の問題に関する案内や情報を ISC に属する学校に公開している<sup>(9)</sup>。

一方、ISC 所属のインディペンデント・スクールの監査を行っている非営利組織団体が ISI である。ISI は ISC の学校における監査の責任を担っており、2005 年教育法の第 162A 条により、監査目的を持つ ISC の下位組織として認可された団体である。彼らは、諸学校が法令による要求をどの程度満たせるかについて子ども・学校・家庭省に報告し、その業務の質は同省を代表する OfSTED によって監視されている。

ISI の監査を受けた全学校の最新監査報告書は、同団体のウェブサイトで公開されており、そこで

情報を入手することができる。またイングランド内で ISC に所属していないインディペンデント・スクール、および ISC の正式認可を受けたスコットランド、ウェールズ、北部アイルランドのインディペンデント・スクールは、それぞれの管轄の国家監査団によって監査を受けることになっている<sup>(10)</sup>。

ISI による監査の主な目的は、学校教育の質の向上、生徒の発達度合いの促進、および国家の要求する登録水準に学校が応じているか否かを確認することである。監査制度は客観的かつ公平な報告が行えるよう策定されており、その報告書は学校がよりよい対策や成果を得られるようにするために使用すべき判定や勧告を盛り込んだものとなっている。ISC 以外から学校が HMC 校などの独立学校団体に加盟申請する場合、同校は最初の認可を受ける前に、十分満足のいく ISI の監査報告を受けていることが肝要である。その報告結果によって 6 年毎の監査時に再認可を受けることが可能になる<sup>(11)</sup>。

各学校が受ける通常 6 年毎の学校監査において、ISI 監査官は、多くの現役または退職して間もないインディペンデント・スクールの校長や年配の教師、OfSTED 監査官や退職した勅任視学官（HM Inspectors）の中から選ばれる。全ての ISI 監査官は特別な訓練コースを通過した者であり、彼らはチームになって監査を行う。なお、チームの指揮は通常、結果報告を行う退職した勅任視学官や OfSTED の監査官、または非常に経験のある現役および退職して間もないインディペンデント・スクールの校長が執ることになっている<sup>(12)</sup>。

ハウス（寄宿舎）の基準の監査は 2007 年 3 月 31 日以前は The Commission for Social Care Inspection（CSCI）という機関によって行われていたが、現在は OfSTED の監査官によって監査されている。しかし、監査方法や規定は短期間で大きな変化が見られたわけではなく、多くの CSCI のスタッフは OfSTED で以前と同様の職務に就いている。ISC によると、行政的に可能な場所であれば OfSTED と ISI の監査は共同監査が今後も継続されていき、各々がそれぞれの報告書を作成し、全保護者へ送られることになる。一方、合同監査が不可能な場所においては、ISI 監査官は、国定のハウス基準を監査する代わりに、各学校が前回の福祉監査の勧告を踏まえて改善措置を取っているかどうかについて調査することになる。そして彼らはこの点について、学校監査報告書における生徒の寄宿教育、パストラル・ケア、福祉、健康、安全の質についてのセクションで言及する<sup>(13)</sup>。

ちなみに、2006 年度より学校監査報告書の監査項目が簡略化され、以下のフォーマットに沿って監査報告書が公表されるようになっている。

### 1. 導入

#### 学校の特徴

### 2. 教育の質

#### 提供される教育経験

#### 生徒の学習と学業成績

#### 生徒の精神的、道徳的、社会的および文化的発展

#### 教育の質（査定を含む）

### 3. ケアと人間関係の質

生徒のパストラル・ケア、福祉、健康および安全の質

保護者およびコミュニティとの交流の質

寄宿教育の質

#### 4. 管理運営の有効性

管理の質

リーダーシップと経営の質

#### 5. まとめと課題

総括

課題

#### 6. 監査における検証のまとめ

監査官リスト

### 3. 現代英国パブリック・スクールの完全寄宿制に見られる利点と意義

歴史的変遷の中でなされてきたパブリック・スクールの変容の結果、校長会議校全体のみならず、グレート・ナイン<sup>(14)</sup>の学校においても女子生徒の受け入れや一部通学制の導入が進み、現在では設立当初から完全寄宿制を敷いているパブリック・スクールは、イートン校とハロウ校のみである<sup>(15)</sup>。これらの2校においては、固守されてきた完全寄宿制という伝統に現在も忠実であり、今後もそのスタンスを維持しようとする姿勢が窺える。まず両校における完全寄宿制の意義を捉えるため、主に両校の公式ウェブサイトを通して寄宿制度に対する考え方を捉えたが、ハロウ校は、昨今における他のパブリック・スクールの通学制や週日寄宿制などの導入の動向に反してなぜ同校が一貫して完全寄宿制を維持するのか、その理由を学校紹介の中で明示している<sup>(16)</sup>。以下のハロウ校に関する質問形式の記述は、同校の公式ホームページで提示されている情報を元に筆者が適宜抜粋、翻訳したものである。

・なぜハロウ校は、通学生や週日寄宿生など完全寄宿生（full boarder）ではない生徒の受け入れを行わないのか。

ハロウ校は、完全寄宿制を取る非常に数少ないボーディング・スクールであるが、それは放課後生徒が帰宅するときに学校に残る寄宿生との間に摩擦が起こるのを回避する意味合いがある。また非常に多岐に亘ったアクティビティやスポーツ試合が週末に設けられており、もし週末に帰宅する生徒が出てくると調整が困難になるのである。

この点に関して、15歳の現役生徒は、ハロウ校は、多忙な生活が維持されており、決して退屈することはないと述べている。ハロウ校は完全寄宿制を取っているが、親は子どもの試合観戦や演奏会の鑑賞をはじめ、いつでも学校を訪問することができ、また子どもを学外に連れ出すことも許可され

ている。学校と父兄の連絡は頻繁に取られており、生徒は親から完全に隔離された環境で学校生活を送らなければならないということはないようである。

また、ハロウ校では教師やハウスマスター<sup>(17)</sup>、学年の異なる生徒に、完全寄宿制のハロウ校に学ぶ意義をインタビューしている。それらを総括すると、週7日間、アカデミックな側面以外にもスポーツや芸術活動、その他の課外活動に触れる機会があること、そしてその中で生涯に亘って取り組んでいける趣味や興味関心が生まれる可能性があることが挙げられている。同校の全教師は校内に宿泊しており、それによって夜間や週末に多くの活動機会を提供することができる。

さらにハウスにおける寮長や寮母の生徒の管理や、ハウス内にいる数人の学習サポートに携わるスタッフの監督によるパストラル・ケアが行き届いていること、そしてハウスにおけるスタッフと生徒の人間関係が巧みに築き上げられている点が完全寄宿制の持つ利点として指摘されている。

一方イートン校は、学校の提供する情報の中で、イートン校の教育目標（狙い）とイートン校におけるパストラル・ケアのあり方に関する主に2点において同校が完全寄宿制であることに言及している。イートン校の教育目標は以下の5点にまとめられている<sup>(18)</sup>。

1. 卓越性を追求する中で独立した考えや学習に関して最善の習慣を身につけようとする。
2. 全生徒が自身の強みを見極め、学校においても卒業してからも自身の才能を最大限に引き伸ばせるような幅広い教育を提供すること。
3. それぞれの個性や相違点、またチームワークの大切さや学校および地域社会に対して尊重する心を育むこと。
4. 健康、情緒的成熟、精神的豊かさを育むパストラル・ケアをサポートすること。
5. 自信、情熱、忍耐力、寛容さ及び誠実さを養うこと。

以上の点を明示した上で、同校はこれらの5点を目標に掲げている完全寄宿制学校であると強調している。

両者の比較から、完全寄宿制の意義を問うとき、ハロウ校と同様にイートン校においてもあらゆる種類の幅広い教育の享受のみならず、パストラル・ケアが重要なキーワードとなっていることが分かる。イートン校は完全寄宿制学校であることを前提としてパストラル・ケアの重要性を説いているが、以下にその内容を適宜翻訳、要約したものを挙げる<sup>(19)</sup>。

イートン校の生徒は、各ハウスに同学年10人ずつほどの生徒が合計約50人所属している。大規模校でありながら小規模のハウスの構成によって成り立っているゆえ、強力なパストラル・ケアを施せるという独特なバランスを保っている。（中略）寮長及び夫人は生徒たちの寄宿生活のあらゆる側面で必要なことに関しては援助する。寄宿生が問題に直面したとき、彼らが自身の

考えと努力によって熟慮された解決がなされるよう、寮長や夫人は彼らに協力の手を差し伸べるが、ここにも絶妙かつ重要なバランスが取られている。

イートン校には寮長代理と寮母代理がおり、各ハウスの専属スタッフもいる。新入生はパーソナルチューターと呼ばれる、各ハウスにいるいわば家庭教師によって、その後の学校生活の基礎となる学習習慣を身に付けていくことになる。チュートリアルの中には社会や健康についての討議が求められ、ハウス内における学習上及び生活上携わる人間関係の中で、生徒は大人たちと気持ちよく心を開いて話すことを学んでいく。

一方イートン校と同様に、ハロウ校も完全寄宿制の学校として重視するパストラル・ケアに関する説明がウェブサイトでなされているが、ハロウ校の場合、2006年度に行われた最新の学校監査報告書<sup>(20)</sup>の「ハロウ校に備わった完璧な点」(What Harrow provides perfectly)の一部項目を抜粋し、同校の行き届いたパストラル・ケアの紹介をしている<sup>(21)</sup>。

学校生活の全側面において、スタッフは卓越したサポートと指導を行っている。各ハウスを中心に非常に効率的なケア体制が整っており、常時寮長、チューター、寮母がチームを組んで生徒の対処に当たっている。また、健康教育チューターと呼ばれるスタッフが定期的にハウスを訪れ、助けやアドバイスを必要としている者の「聞く耳」(リスニング・イヤーズ)の役割を果たしている。また学校カウンセラー及び礼拝堂つきの牧師がそれぞれ匿名のカウンセリングや指導を行い、重要な役割を果たしている。寮長及び上級生は同じハウスの下級生のメンターの役割を、責任を持って果たしており、学校のスタッフと生徒、また学年の異なる生徒間の人間関係は模範的なものである。上級生は模範的行動によって自らの主導権を示し、品行方正な態度をより高めている。生徒たちは学校内外でお互いに協力的であり、それが安全かつ快適な環境の促進につながっている<sup>(22)</sup>。

‘ケアと人間関係の質’、生徒のパストラル・ケア、福祉、健康および安全の質

また、両校の最新の学校監査報告書から以下のような寄宿制の利点も窺い知ることができる。まずハロウ校には、上記の点以外に次のような記述が確認できる。

・全ての寄宿生の人間関係は素晴らしい。彼らは非常に温かく、その温かさが彼らの自信や自尊の念を育み、また促進させていくことができるコミュニティのセンスを創造している。例えば、年長の生徒は新入生が学校に馴染めるように手助けをするといった特別なニーズがある際はいつでも他の生徒をサポートしている。ハウス対抗の合唱コンクールなどにおける、異学年の生徒の協力的なチームワークが、同校の人間関係を物語る顕著な特徴である。

‘ケアと人間関係の質’、寄宿教育の質

一方、イートン校の学校監査報告書でも数箇所にならって同様の記述が見られる<sup>(23)</sup>。

・寄宿生活、責任の強調、広範囲に及ぶ芸術活動の機会が、彼らにとって人間として適切に、社会的かつ文化的に成長させることを可能にしている。

・多数の学校およびハウス単位の演劇プロダクション、コンサート、音楽コンクールが生徒の文化および社会的分別の理解を促進している。

‘生徒の個人的成長とパストラル・ケア’

・パストラル・ケアの質は全体的に素晴らしく、ハウス内のチュートリアル（個人授業）やカウンセリング制度は、生徒の教育水準と個人的成長に対して非常に前向きで生産的な貢献をしている。

・パストラル・ケアのアレンジは大変効果的で、寮長はハウス内の全生徒の生活のあらゆる側面をチェックしている。

・寮長は生徒の学業的達成や促進を間近で見守り、的確なアドバイスや忠告を与えている。

‘福祉、健康、安全を含むパストラル・ケア’

・寄宿舎の監査については、生徒および保護者の肯定的な反応を確認した。監査は短期間であったものの、寄宿舎および生徒の個人的成長を促進するような多くの変化をそれぞれの担当スタッフが認識し、実行に移している。

・監査期間を通してハウスの職員と生徒の人間関係は非常に素晴らしいものであった。

‘寄宿舎の水準’

以上のように、寄宿制パブリック・スクールは学校監査報告書においても非常に肯定的に捉えられていることが窺える。

両校の完全寄宿制のあり方を通して、3つの共通点が浮かび上がってくる。第1に、週末や夜の時間帯を含めた1週間7日を使って構成される、アカデミックな科目からスポーツ、演劇、芸術、課外活動といった多岐に亘る教育内容のカリキュラムやプログラム実行の実現可能性が高まる点、第2に学校生活の拠点が生徒の所属するハウスにあり、寄宿生活を通して人間形成にとって重要なパストラル・ケアの役割が助長される点、第3に、寄宿舎内に、学年を超えた生徒間の絆が芽生え、年長の学生の年少の学生に対するケアや庇護精神、および相互協力の精神が育まれ、それが、相互扶助や団結力を強める結果になり、コミュニケーション能力をはじめとするソーシャルスキルが伸長する点である。寄宿舎生活に期待される、いわばこれらの利点を満たすことが教育上最も意義深いことであり、寄宿制度衰退の風潮の中においても教育的指針の核として捉える姿勢が完全寄宿制を維持するイートン校とハロウ校に共通して見られる点である。

#### 4. おわりに

1988年の教育改革法により、ナショナル・カリキュラムが制定され、親の学校選択が開始し、全国成績一覧表（リーグ・テーブル）が公表されるようになった。それに伴い、必然的に学校選択の際に各学校の学力を重視する傾向が生まれた。それは「学校＝テストに合格させる学習を提供する場所」という概念を強める結果となり、ナショナル・カリキュラムに沿った授業が義務付けられていないインディペンデント・スクールにおいても、入試の時点から学力を重視する傾向が出てきている。このことは、イートン校やハロウ校などの有名パブリック・スクールにおいても例外ではない<sup>(24)</sup>。学校を選択する生徒および保護者のみならず、学校側も近年の教育については学業成績を念頭に置く見方が強まっていることは事実である。CEE<sup>(25)</sup>と呼ばれる入学共通試験や各学校が独自に設けた入学試験の成績結果は、パブリック・スクール入学の際、生徒の学力診断のための重要な判断材料になり、伝統的なパブリック・スクールにおいても、世襲的に親子が代々学んできたという理由で子弟をその学校に入学させることが事実上不可能になった。また、イートン校やウィンチェスター学校には設立当初からオックスフォード大学およびケンブリッジ大学の特定のコレッジに特別な入学優先枠があったが、近年それらも排除された<sup>(26)</sup>。このような動きにより、現代英国パブリック・スクールは伝統を打破し、入学に際しても進学においても特権階級的要素より学力重視の平等性が絶対条件として浸透してきた。

しかしそのような現状の中で、パブリック・スクールでは学力の向上のみならず多岐に亘るカリキュラムが用意され、生徒は様々なスポーツや課外活動に勤しむ機会が提供されており、バランスの取れた教育を享受している<sup>(27)</sup>。そして彼らは現代的教育の風潮を受けてはいるが、学校で人格陶冶を促進するような生活環境に置かれていることが学校監査報告書や各学校のウェブサイト、またハロウ校においては、教師や生徒、寮長のインタビューを介して証明されている。このように、受験中心主義とも言うべき現代の教育の状況下において、時代の要請に応えつつも完全寄宿制という特性を巧みに生かし、均整の取れた教育を提供している点が、現代における英国パブリック・スクールの意義として改めて見直されるべきではないかと思われる。

具体的に、通学制のパブリック・スクールの場合、カリキュラムを受験科目中心に組んでいくと、限られた時間を調整するためにスポーツや芸術の時間を確保することが難しくなる。しかし、完全寄宿制を取ることで全生徒がゲームと呼ばれる集団スポーツや音楽、絵画、演劇などの芸術活動を週末の時間に効率よく充て、受験を見越して学力増進を図る学術科目を週日に十分確保することが可能になる。さらに、ハウスの生活においても寮長や寮母、ハウススタッフの常駐する環境で、パストラル・ケアが重視され、学習や生活上のアドバイスやカウンセリングを受けられる。その上、学年の異なる生徒同士、規律正しい集団生活を送ることによって学力的にも精神的にも成長することが期待できる。実際に、イートン、ハロウ両校において、人格陶冶の成功を窺わせる記述が学校監査報告書等から読み取れるが、学力の点においても公表されるリーグ・テーブルの学外試験の結果を通して高く



保持されていることが分かる<sup>(28)</sup>。以上の点が現代英国パブリック・スクールの寄宿制のもつ意義として捉えることができるのである。

なお、本論文における課題として、2点挙げられる。1点目は、今回の論文が完全寄宿制を採用イーントン校とハロウ校を選出したという点である。イーントン、ハロウ両校はパブリック・スクール荒廃期の19世紀に調査され、グレート・ナインとして選出された伝統校であり、英国パブリック・スクールの中でも最も知名度の高い学校の中の2校に数えられる。したがってこれら両校から得られた調査結果や分析結果が、現代英国パブリック・スクールにおける寄宿制の意義という観点からのアプローチであっても、他の全ての同様の学校についてそれらを適用し、一般化して結論付けすることは難しい。

2点目は学校監査報告書の限界についてである。既述のように、同監査は国によって認可された組織によって行われるものであり、監査を担当する独立学校監査団の業務の質も政府機関であるOfstedによって監視されている。さらに全てのISI監査官は、現役または退職して間もないインディペンデント・スクールの校長や年配の教師、Ofsted監査官や退職した勅任視学官の中から選ばれ、特別な訓練コースを通過した者たちで、監査は組織的に行われ、その意味で信頼に足る調査対象であると言える。しかしながら、同監査は基本的にあらかじめ規定された項目に基づいて実施されるという点と、実際に監査官が数日間の学校監査の中で行うインタビューや授業の参観、施設のチェック等を通してどこまで通常の実態に迫る正確な監査が行えるかという2つの点から、学校監査報告書を用いた調査の限界性が懸念されよう。したがって同報告書の内容の信憑性を高めるためには、監査官、学校、生徒の各側面から情報収集を行い、詳細の把握に努めることが肝要であると思われる。今後はこれらの課題を考慮し、研究の精緻化を図っていきたい。

注(1) 本論では、寄宿舎、寮、ハウスを同義で用いることとする。

(2) 竹内洋 研究代表

『大衆教育時代におけるエリート中等学校の学校文化と人間形成に関する比較研究』

平成11-13年度文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）研究成果報告書 2002年9頁。

(3) 池田潔『自由と規律：イギリスの学校生活』岩波書店 1949年。

同書の中で著者は、1930年代の寄宿制パブリック・スクールに学んだ自身の経験について、「教師の室と病室を除いては学校中に暖房設備というものがない。室内を吹き荒ぶ木枯に一夜が明けて、朝、目が覚めると毛布の裾に薄く雪が積もっていることがある」、また食事について「イギリスの最も貧しい家庭の一步手前のそれ」と記述している。

(4) 竹内洋『学校システム論』日本放送出版協会 2007年114頁。

(5) CCF: Combined Cadet Force（連合将校養成隊）と呼ばれる課外活動のひとつ。

(6) MORI: Minnesota Opinion Research, Inc. 1982年に設立されたメディア調査会社。創業以来、アメリカ、カナダ、イギリスの250社以上のメディアと業務を行っている。

(7) The Headmasters' and Headmistresses' Conference (HMC) = この邦訳が校長会議である。

The Girls' Schools Association (GSA)

The Independent Association of Prep Schools (IAPS)

The Independent Schools Association (ISA)

- The Society of Heads of Independent Schools (SHMIS)
- (8) Independent Schools Council, 'What is ISC?'  
[http://www.isc.co.uk/AboutUs\\_WhatIsISC.htm](http://www.isc.co.uk/AboutUs_WhatIsISC.htm) (2009年7月24日)
- (9) 同.上。
- (10) Independent Schools Council, 'The Independent Schools Inspectorate (ISI)'  
[http://www.isc.co.uk/Inspection\\_TheIndependentSchoolsInspectorateISI.htm](http://www.isc.co.uk/Inspection_TheIndependentSchoolsInspectorateISI.htm) (2009年7月24日)
- (11) Independent Schools Council, 'The Purpose of a School Inspection'  
[http://www.isc.co.uk/Inspection\\_ThePurposeofaSchoolInspection.htm](http://www.isc.co.uk/Inspection_ThePurposeofaSchoolInspection.htm) (2009年7月24日)
- (12) Independent Schools Council, 'The Inspection Process'  
[http://www.isc.co.uk/Inspection\\_TheInspectionProcess.htm](http://www.isc.co.uk/Inspection_TheInspectionProcess.htm) (2009年7月24日)
- (13) Independent Schools Council, 'Boarding School Inspection'  
[http://www.isc.co.uk/Inspection\\_BoardingSchoolInspection.htm](http://www.isc.co.uk/Inspection_BoardingSchoolInspection.htm) (2009年5月24日)
- (14) 1861年、当時荒廃していたパブリック・スクールの中で、クラレンドン伯爵を中心に組成された委員会が模範校として選定した9校を指す。
- (15) 2009年5月現在、ハロウ校には6th フォームに1名の女子学生が在籍している。この生徒は寮長の娘であり、同校では教職員の娘が6th フォームに在籍することがごく稀にある。しかしこの事実が、同校が女子に門戸を開いていくことを示唆するものではない。
- (16) Harrow School 'Why choose full boarding?'  
<http://www.harrowschool.org.uk/default.aspx?id=322> (2009年8月20日)
- (17) 寮長を指す。イギリスでは寮(寄宿舎)をDormitoryではなく、Houseと呼ぶ。
- (18) Eton College, 'Eton's Aims'  
<http://www.etoncollege.com/EtonsAims.aspx> (2009年8月20日)
- (19) Eton College, 'Pastoral Care'  
[http://www.etoncollege.com/pastoral\\_care.aspx](http://www.etoncollege.com/pastoral_care.aspx) (2009年8月20日)
- (20) 2002年教育法の163条により、イギリスの全ての独立学校は独立学校監査団(Independent Schools Inspectorate, 以下ISIと表記)によって監査されることが義務付けられた。ISIは1998年ISCの統一委員会の承認を得て2000年4月に設立され、2003年に政府から監査機関として認可されたISCの独立部門である。
- (21) Harrow School, 'Pastoral Care'  
<http://www.harrowschool.org.uk/default.aspx?id=68> (2009年5月20日)
- (22) Independent Schools Inspectorate, Harrow School, 'The Quality of Care and Relationships'  
[http://www.isi.net/reports/2006/0485\\_06.htm](http://www.isi.net/reports/2006/0485_06.htm) (2009年5月25日)
- (23) イートン校の最新学校監査は2004年であるため、旧型のフォーマットに基づいて監査が行われている。従って2006年度に行われたハロウ校の報告書と、フォーマットの分類が一致していない。
- (24) イングランドのテレビ放送にてインタビューに答えたイートン校の歴史の教師T. P. Connor氏によると60-70年代位までは縁故入学により、親子何代にもわたって生徒がイートン校に入学できていたが、80年代になると全生徒のCEE(共通入学試験)受験が必須となり、知的に証明できなければ入学することができなくなった。(Howard. Cuard. Pro. 製作。1995年、イングランド)
- (25) CEE= Common Entrance Exam
- (26) 1382年にウィンチェスター寺院の主教、ウィリアム・オブ・ウィッカムがウィンチェスター校を創立し、その7年後オックスフォード大学ニューカレッジを創立した。そして両校の関係は入試における優遇措置という形で近年まで続き、ウィンチェスター校の卒業生には、オックスフォード大学ニューカレッジに優先枠があった。また、1440年には時の国王ヘンリー6世が、居城であるウィンザー城の軒下にイートン校を創立した。このイートン校も、近年までケンブリッジ大学キングズカレッジと同じような密接な関係を築いていた。

(27) 表1を参照のこと。

(28) Department for Children, Schools and Families, 'Achievement and attainment tables in 2008'

<http://www.dcsf.gov.uk/performance/tables/> (2009年7月23日)BBC News, 'Top A-level results' <http://news.bbc.co.uk/1/hi/education/7827223.stm> (2009年7月23日)

表1 イートン校およびハロウ校の情報

(各校および独立学校委員会のウェブサイトをもとに筆者作成。2009年度現在。)

	創立年度	学校形態	性別	生徒数	履修科目	スポーツ	備考
イートン校	1440年	完全寄宿制	男子校	1311人	ギリシア語、ラテン語、アラビア語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、日本語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、国語、国文学、古代史／古典公民、美術、生物、化学、コンピューターIT、デザイン&テクノロジー (CDT)、ドラマ／演劇学、経済、電子工学、応用数学、地理、政治学、歴史、美術史、数学、音楽、哲学、物理、宗教学、その他	陸上、バドミントン、バスケットボール、カヌー、ウォールクライミング、ウォールゲーム、フィールドゲーム、クリケット、クロスカントリー、フェンシング、フィットネストレーニング、ファイブズ、サッカー、ゴルフ、体操、ホッケー、武道 (合気道、柔道、柔術、空手、カンフー、太極拳、カポエラ)、ボロ、ラケット、漕艇、ラグビー、セーリング、射撃、スカッシュ、水泳、卓球、テニス、バレーボール	午後は隔日でスポーツあり。クラブ活動や課外授業、音楽のレッスン、スポーツ試合などは主に週末にあり。
ハロウ校	1571年	完全寄宿制	男子校	809人	ギリシア語、ラテン語、アラビア語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、日本語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、国語、国文学、古代史／古典公民、美術、アート&デザイン、生物、ビジネス、化学、クリティカルシンキング、デザイン&テクノロジー (CDT)、ドラマ／演劇学、経済、EFL/ESL (外国語としての英語)、応用数学、地理、政治学、ギリシア語、歴史、美術史、数学、音楽、写真、体育、物理、宗教学、スポーツ科学、統計、その他	アーチェリー、陸上、バドミントン、バスケットボール、カヌー、ウォールクライミング、クリケット、クロケット、クロスカントリー、フェンシング、フィットネストレーニング、ファイブズ、サッカー、ゴルフ、体操、ホッケー、乗馬、柔道、ボロ、ラグビー、セーリング、射撃、スカッシュ、水泳、卓球、テニス、バレーボール、水球	クラブ活動や課外授業、音楽のレッスン、スポーツ試合などは主に週末にあり。スポーツは毎日でもできる。レベル別。